

歴史文化施設前庭整備計画(案)

平成21年7月

盛岡市

(1) はじめに

この前庭整備計画は、お城を中心としたまちづくり計画に掲げられている実施計画のうち、平成21年度から平成22年度に事業実施を予定している歴史文化施設前庭整備の詳細について示すものです。

(2) 前庭整備計画の考え方

ー1 基本テーマ

お城を中心としたまちづくり計画における前庭整備の役割(まちづくりの方向性)

お城を中心としたまちづくり計画における、まちづくりの基本な方向性に向け、同計画第4章実施計画、ー7. まちづくりの展開と実施計画に掲げられている次の事業と関連付け、前庭整備計画を策定します。

◇史跡・公園エリアのまちづくり

1. 城下町盛岡のシンボルとなる公園づくり
 - (4)施設の充実により利便性を高め、安心して憩える公園づくり
 - イ. 都市公園整備計画
 - ②盛岡城跡公園(史跡)整備計画の策定
2. お城らしい風格ある景観づくり
 - (1)お城の風格と自然環境を生かした魅力的な景観づくり
 - イ. 景観に配慮した公園づくり
 - ③ヒマラヤシーダの検討
3. 歴史遺産の継承と学びの拠点づくり
 - (1)歴史的・文化的背景を活かした都市型ミュージアムづくり
 - ア. 歴史文化施設整備事業
 - ②歴史文化施設整備に伴う植栽整備
 - (2)お城を歴史文化遺産が一体となった新しい観光スポットづくり
 - ア. 歴史文化施設周辺環境整備事業
 - ①歴史文化施設前庭整備
4. 人々が集い、情緒と賑わいのまちづくり
 - (2)歴史文化施設と大手先(桜山神社周辺地区)が連携した観光まちづくり
 - ア. 史跡・公園エリアも活性化策の検討

ー2 基本理念

市街地と城跡, そして, 中津川をつなぐ歴史文化施設のあるオープンスペースの整備

(仮)盛岡市歴史文化施設展示基本設計(平成 20 年3月)に基づき, 「もりおか・城と城下町フィールドミュージアム」の基点として, 次の機能を備えた環境整備を図ります。

- ① 公園・歴史文化施設のメインエントランス機能
- ② 歴史文化施設利用者にとっての集いの機能
- ③ 中心市街地(官庁街)にある緑のオアシスとしての機能
- ④ 歴史文化施設活動と中津川との連携機能



◇ 基本方針

フィールドミュージアム構想の出発点～歴史文化施設を核にしたまち歩きの拠点～

歴史文化施設を中心に、盛岡城跡と城下町（中心市街地）を屋外展示としてとらえ、地域へと広がるミュージアムづくり、活動展開を実施する。

歴史文化施設から城跡へ、さらに城下町エリアへと、一体感と広がりを持たせる活動展開を想定し、中心施設を起点に人が集い、動き、周遊することを常にねらいとする。

歴史性の継承

- ・ 盛岡城跡を中心とした都市公園であり、新たに整備される歴史文化施設に配慮した整備を行う。
- ・ 各種記念碑や記念植樹の保全を図りつつ活用する。

明るさや賑わいを感じさせる空間の形成

- ・ 既存施設や植栽の見直しを行い、利用者に親しまれる空間を創出する。
- ・ 盛岡城跡公園、中津川と調和した景観を形成する。

緑の質の向上

- ・ 多くの市民、来訪者にやすらぎ、憩いをもたらしている緑空間の機能をいっそう高める。

(3) 計画地の現況

—1 計画地の現況



樹木の衰退度判定による個別評価

ヒマラヤシーダ44本の生育状況を把握するため、樹木の衰退度判定基準(※1)により、総合的な生育状況を個別評価しました。

個別評価にあたっては、有資格者(※2)により、樹高、胸高直径、樹勢、樹形、枝の状況、枝張りなど11項目にわたり調査を行い、ヒマラヤシーダの生育状況を個別評価をしました。

(※1)衰退度判定基準:樹木の病気や腐朽などを発見する際に、木を傷つけて診断することはできません。そのために、外観の調査により地上部の衰退度(判定基準の項目の評価値÷評価項目数)を診ることで樹勢診断を行います。この方法は、(財)日本緑化センターがまとめたものであり、樹木医も用いている方法の一つです。

(※2)生物分類技能検定:環境省所管の「財団法人自然環境研究センター」が認定する資格制度で、野生生物に関心がある人を対象に正しい分類知識の習得や、調査や保全を担う人材育成、環境調査の精度向上を目的に創設されたもの。

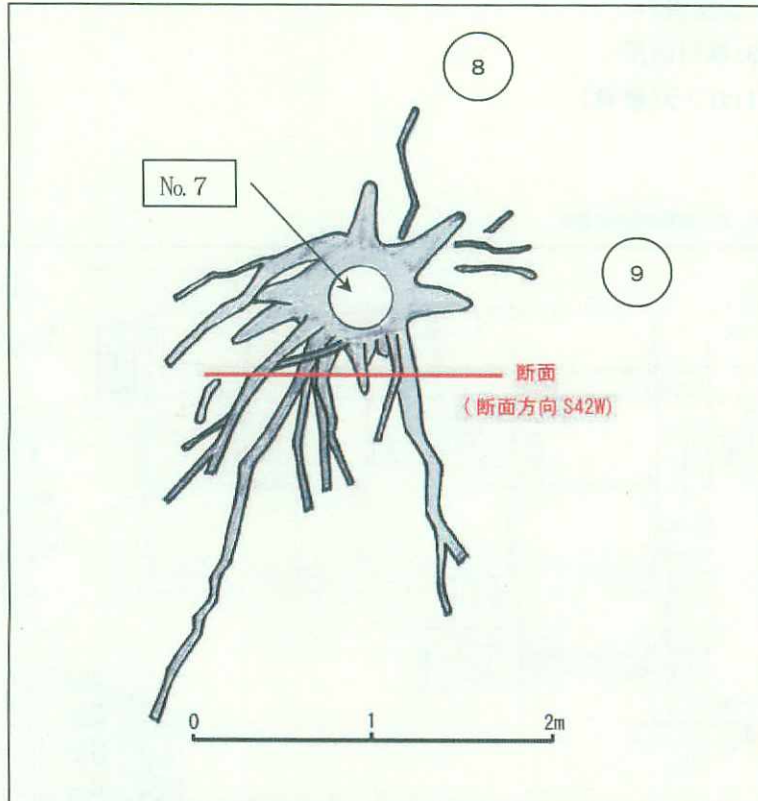
◇ 個別の生育状況

全体として、概ね生育状況は良好でした。しかし、植栽密度が非常に高いことから、樹形(自然樹形)、下枝先端の枯損、枝葉の密度について、約9割がやや衰退しており、今後も良好な生育状況を保つためには、適度の間伐が必要と考えられます。

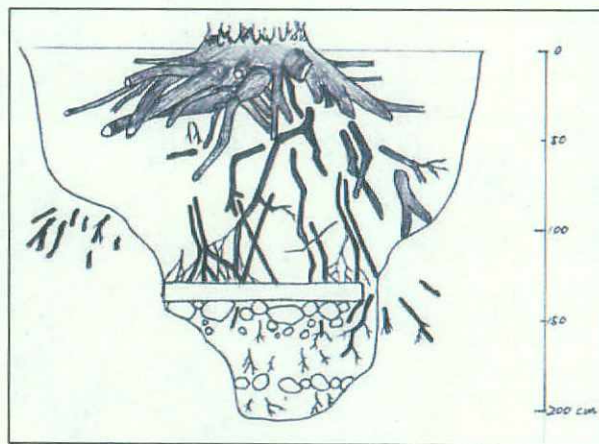
また、樹間が十分に確保されておらず、根系の競合が予想されるものについては、自然の根系とは違う発達が予測され、適切な生育環境の改善の必要があると考えられます。

- ・ 樹高 12m～28m(平均 24.5m)、幹が途中で折れたもの、先端が枯死したものもある。
- ・ 道路側、公園側の2列に植栽されているため、植栽密度が高く、樹間の枝は、地上20m付近まで、枝が枯れあがっているものがほとんどである。
- ・ 葉の状況は良好である。
- ・ 腐朽・樹洞等は、外観診断からは認められなかった。(伐採済みの15本にも認められなかったことから残りの44本の同様と推測できる)
- ・ ヒマラヤシーダの地下部の状況を把握するため、伐採済み(No.7)の根系調査を実施した結果、隣接するヒマラヤシーダの根系が競合する側の根は、細い複数の根、もしくは、途中で向きを変えた大きく曲がった太い根が発達しており、著しい根の生育の抑制がされている状況が確認できた。

ヒマラヤシーダの根系の状況 (No. 7)



水平方向



垂直方向



現況写真

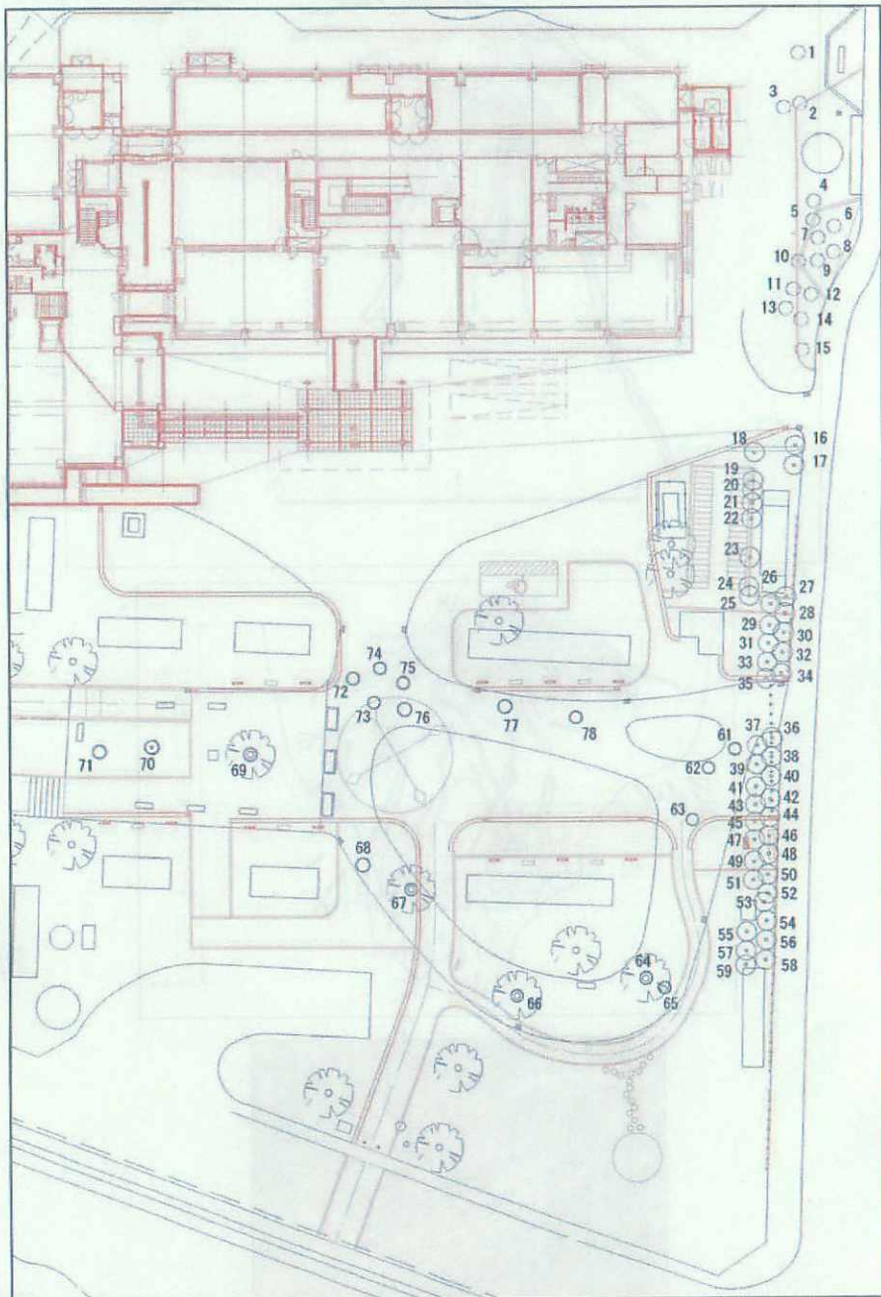
◇ ヒマラヤシーダの位置 (No.1~No.59)

No.1~No.15: 伐採済み

No.16~No.59: 検討箇所

No.61~No.71: カツラ(参考)

図V-1. 個別調査対象木位置図



－3 現況の評価

現地調査における評価

◇ 評価される点

- ・ ヒマラヤシーダをはじめとした植栽が多く、緑豊かな公園をイメージさせる。
- ・ 沿道の並木が主要道路からのランドマークとなっている。
- ・ 高い樹高と枝張りにより、日影ができやすく、緑陰効果は高い。
- ・ 市街地(官庁街)にある突出した大木は大きな存在感を示している。
- ・ 重厚感のある大木が年月を感じさせる。
- ・ 冬期には結氷や、降雪により周囲の広葉樹にはない趣がある。
- ・ 広場からは市街地景観が遮断されており、静寂空間が確保されている。
- ・ 広場内では緑に囲まれた雰囲気を楽しめる。

◇ 問題点・課題点

- ・ 一日を通じて歩道のみならず、車道の一部も日影に覆われており、冬期においては路面凍結への影響が懸念される。
- ・ 車道まで張り出している枝に積もる雪の落下や枝落等、歩行者や車両への被害が懸念される。
- ・ 当該地のヒマラヤシーダの大半が、樹高 25m 以上であり、万一、これらが倒れた場合には信号機や標識の倒壊、電線の切断、周辺建築物の破損等が懸念される。
- ・ 樹間が狭く密集しており、濃い緑が暗く冷たい印象を与えている。
- ・ 高木の植栽で囲まれていることから、隔離空間の様相にあり、公園の広がりを感じさせない。
- ・ 落葉・落枝があり、公園外の歩道等に支障を与えている。
- ・ 建物(歴史文化施設)の存在が認識されない。
- ・ エントランスとしての象徴性が不足している。
- ・ 芝生広場や中津川、城跡への誘導性が感じられない。
- ・ 敷地面積と比較して広場が狭く、低木仕立ての目的で植栽されているアカマツの樹高が高くなっていることで、利用者の視線を遮り、植栽の多さを感じさせ、窮屈な印象を与えている。
- ・ 周辺からの石垣の景観の支障となっている。
- ・ カツラの根系の発達によって舗装等が持ち上げられ、公園の利用だけでなく、通行にも支障を与えている。
- ・ 根系による岩手公園地下駐車場の躯体への影響が懸念される。

市民の意見

◇ ヒマラヤシーダの伐採(平成21年7月8日まで)に寄せられた市民等の意見

歴史文化施設周辺環境整備(ヒマラヤシーダ伐採)に関する市民意見等(総計)

(平成21年7月8日 正午現在)

市受付分	84人
新聞への投書等	36人
計	120人

意見の内訳

賛成	29件
反対(最小限に)	13件
反対	73件
その他	11件
計	126件

【市民意見等の状況】

賛成の主な理由

密生しすぎ。間引きの必要有
花粉がひどい
陰鬱。城跡にふさわしくない
冬場は日が当たらず危険
計画通りで良い
台風の際など危険
陰気で空間を閉ざしている。本来のお城の景観ではない
史跡の適木でない。陰気で冬場は歩道凍結。将来倒木の恐れ有
街づくりは時代の変遷に対応せざるを得ない場合もある
公園と道路の境界という狭い場所の適ではない。陰気で暗い
車社会の今、やむを得ない
歩道が凍結し危ない
城跡と中津川の眺望を生かしたい
中の橋から城跡を展望できるように
盛岡に相応しい樹にすべき。また、その後の管理が重要

反対の主な理由(伐採は最小限にとの意見含む)

(40年親しんだ)景観が失われる
環境問題、貴重な自然な失われる
集客効果に疑問、ハコモノ整備は時代に逆行
住民合意を得ていない、市民等が納得する理由を
盛岡らしさ、安らぎの場所がなくなる
代替案を検討すべき
環境についての今までの盛岡市の対応と逆行
大型バスの進入・駐車計画を見直すべき
市政全般に対しての不満
伐採は最小限にすべき
間伐をして景観保持と開放感の両立を
施設にマッチするよう考えてほしい。
整備の必要性は理解できるが、街中にある木々は貴重
公園全体の歴史ある景観を損なうことにつながる
博物館施設の集客効果に疑問
緑は守るべき。樹木との共存が歴史文化施設らしさだ
盛岡市は観光客だけのためにあるものではない
図書館利用者等を見守り続けてきた大木。
強行するなら他の事業に市民からの協力は得られない
城跡と一体的に考え整備すべき
伐採は最小限にすべき
最小限の伐採ですむはず。時代に逆行している。
博物館施設の集客効果に疑問
バス進入路の再考を
古樹は町の宝
植物は人間同様生き物である。

その他

行政の一存で決めずに広く市民の声を集めるべきだ。
伐採した木の活用を。
市民、専門家、行政が対等の立場で話し合って最善の計画をまとめることが必要

4 ヒマラヤシーダの対応方針

ヒマラヤシーダの対応方針

歴史文化施設前庭整備の考え方、現地調査における評価、樹木の個別評価、そして、伐採に対しての市民意見から、前庭部分の空間における効果を検討し、前庭整備全体の植栽計画において、ヒマラヤシーダの活用(ヒマラヤシーダらしさの再生)を図ることとします。その際、原則として、今後の維持管理面から、芯止め(成長点を抑える)、整枝剪定等が必要であることも踏まえ検討します。

ヒマラヤシーダの効果の検討

ランドマーク案: 択伐による単木もしくは、複数本による自然樹形の再生によるランドマーク効果の形成

並木保存案: 間伐を行い、並木の保存による景観の形成

再整備案: 全伐により、新たな緑空間の形成

	整備ポイント
ランドマーク案	<ul style="list-style-type: none"> ・中の橋と東大通りからのビューポイントの継承(四季を通じた緑)。 ・ヒマラヤシーダの自然樹形の良さを再生する。 ・中の橋側とエントランス部分にヒマラヤシーダを3本ずつ残し、エントランスの象徴とする。 ・ヒマラヤシーダの伐採により前庭の正面性を創設する。また、伐採した空間には、広葉樹を植栽するとともに、低木を併せて植栽することでフレームを形成する。 ・北口からのアプローチとして広場には列状植栽を行い、ビスタ効果を高める。その焦点には、緑陰を兼ねるアイストップ植栽を行う。
並木保存案	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒマラヤシーダを並木状に活用する。 ・個々の樹形を楽しめるように樹間を開けるための間伐を行う(50%程度)。 ・間伐の対象は、個別評価による結果から景観要素の検討を行い、相対的な関係により25本とする。 ・広場にはビスタ植栽を行い、その焦点には緑陰を兼ねるアイストップ植栽を行う。
再整備案	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒマラヤシーダを主木とした緑空間から、夏緑落葉樹を主木とした緑空間として整備する。 ・市街地景観との一体感、歩道からの連続性を創出、人の交流(滞留)場所として可能な限りオープンスペースを確保する。 ・ヒマラヤシーダを全て伐採し、沿道には視界を遮らない中低木を植栽する。

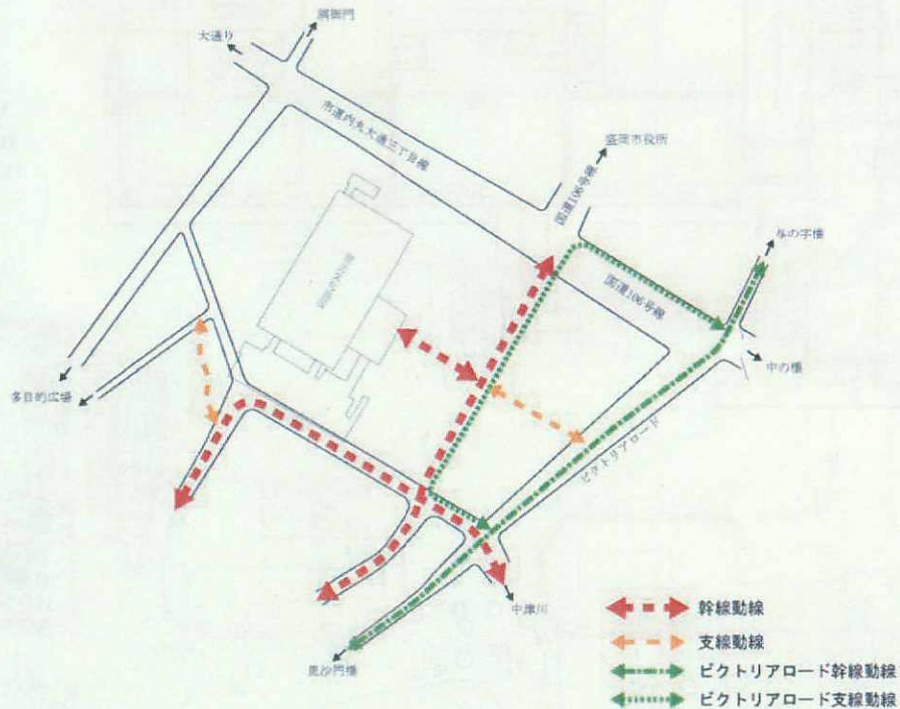
植栽計画の検討

	前庭整備方針 による評価	市民意見による評価	公園整備の基本的考え方 からの評価	衰退度判定からの 評価	木の特性からの評価	景観構成要素 からの評価	維持管理上 からの評価	総合評価
ランド マーク 案	一部伐採し、植栽の再整備を行なうことにより、歴史文化施設、公園のエントランスとしての位置付けが可能となる。	可能な限り保存、保存による弊害のための伐採との中間的伐採により、折衷案的な方法となる。	並木ではなく存在感を引き立てることによりシンボルとすることができる。広場や施設を垣間見せることにより公園内の賑わいを沿道から感じさせることができる。常緑の針葉樹と四季折々に表情を変える夏緑広葉樹により多様な緑を提供でき、質の向上につながる。	樹勢は、概ね良好であるが、樹形等においてやや衰退していることから、単木もしくは複数木の保存により、生育環境の改善を図ることで樹形の回復が期待できる。	本来持っている独立樹形の良さを強調できる。	独立樹形のヒマラヤシードはこれまでとは異なったランドマークになる。また、再整備により、代替の中低木を配置することで、立体的な景観（スカイライン）を形成することができる。公園地下駐車場への加重の軽減につながる。	独立樹的に活用するヒマラヤシードの管理は必要となるが、再整備により将来の維持管理も考慮した他の樹種を選定することにより、維持管理の低減化が可能である。公園地下駐車場への加重の軽減につながる。	公園整備の考え方、ヒマラヤシードの特性を表現でき、市民意見の折衷案的な方法でもあり、景観においてもよく、維持管理の低減につながる。また、樹木の生育環境の改善が図られ、樹形の回復が期待できる。
評価	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎
並木 保存 案	歴史文化施設、公園エントランス部は伐採するも、なお更なる開放性・賑わい確保に欠ける。	慣れ親しんだ景観保全のために全数保存、可能な限り保存との多数意見に合致する。	慣れ親しんだ並木景観を保全することで歴史性の継承につながる。緑の壁となり、芝生広場や中津川への視線誘導ができにくく、各施設の連携を強調しにくい。	樹勢は、概ね良好であるが、道路側と公園側の2列に植栽されているため、樹林と呼べるほどに植栽密度が高い状況である。そのため、幹が広い空間を求め傾き、樹冠も偏って形成されている。今後、並木として維持していくためには、適切な間伐が必要である。	樹形の良さを再生しつつ並木形成ができる。	これまで通りのランドマークとなり、緑に囲まれた公園をイメージさせる。濃い緑の並木は閉鎖的に感じ、奥苦しさを生じる季節がある。	樹形を保ちつつ並木を良好に維持するためには、強い剪定整枝が必要となり、維持管理の負担は大きい。	慣れ親しんだ並木状のヒマラヤシードを活かした案だが、並木として維持していくためには、維持管理上の課題は大きく、倒木への懸念等の弊害除去の問題が残る。
評価	△	◎	△	○	◎	○	△	○
再 整 備 案	市街地と歴史文化施設、城跡、中津川等の各施設の相互連携により、賑わいのあるオープンスペースとするための植栽の再整備を行なう。	閉鎖的、冬期間の路面凍結、公園地下駐車場への加重、倒木への懸念等の弊害により、全伐による再整備を行なうべきとの意見に合致する。	新たな緑空間として再整備することから、各施設と連携した空間構成を展開でき、弊害を除去することができる。	樹勢は、概ね良好である。樹木の更新することで、樹木の適切な生育環境を整備することができる。	ヒマラヤシードに関しては評価対象とならない。	沿道一帯が中低木になることにより、解放空間を形成することができる。市街地との境目のない景観となり、緑の多い公園のイメージが一時的に損なわれるが、質の高い緑空間を育て創りあげることができる。	沿道一帯の管理は中低木が対象となることから、他の2案と比較すると維持管理は容易。公園地下駐車場への加重の軽減につながる。	新たな歴史文化施設の整備を機に周辺の再整備を行なうことにより、樹木の適切な生育環境を確保できると共に、城跡・中津川等と一体的になった賑わいのある空間を創出することができる。
評価	◎	○	◎	◎	-	○	◎	◎

(3)前庭整備計画

ー1 導線計画

- ・ 正面性を重視し、道路との交差点に直交するような軸線配置とする。
- ・ 市街地、歴史文化施設、中津川等とつながり、利用者が自由に行動できる配置とする。
- ・ 既存路線と効率的に連絡する路線を設ける。
- ・ 動線整備では幅員や傾斜の規格にユニバーサルデザインを可能な限り採用する。

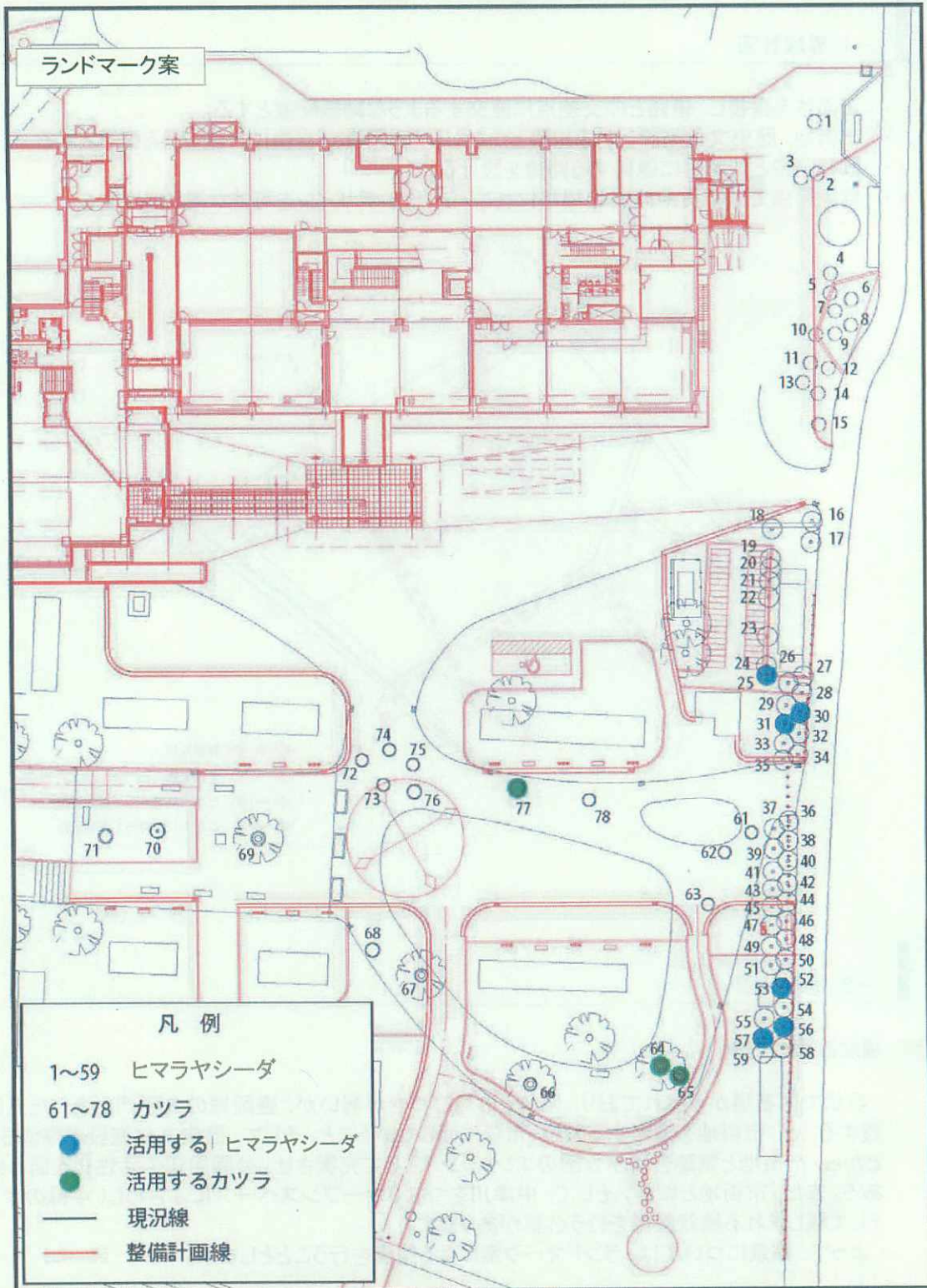


ー2 植栽計画

植栽計画の方針

現状では石垣から離れており、城跡との結びつきが弱いですが、盛岡城の大手門があった東側に位置すること、市街地を横断する国道・市道に面していること、そして、歴史文化施設が整備されることから、市街地と城跡を結ぶ公園のエンタランスとして充実させ、公園周辺の活性化を図る必要がある。また、市街地と城跡、そして、中津川をつなぐオープンスペースにふさわしい、緑のオアシスとして親しまれる植栽整備を行う必要があります。

よって、植栽については、ランドマーク案による整備を行うこととします。



中の橋からのイメージ

[現況]

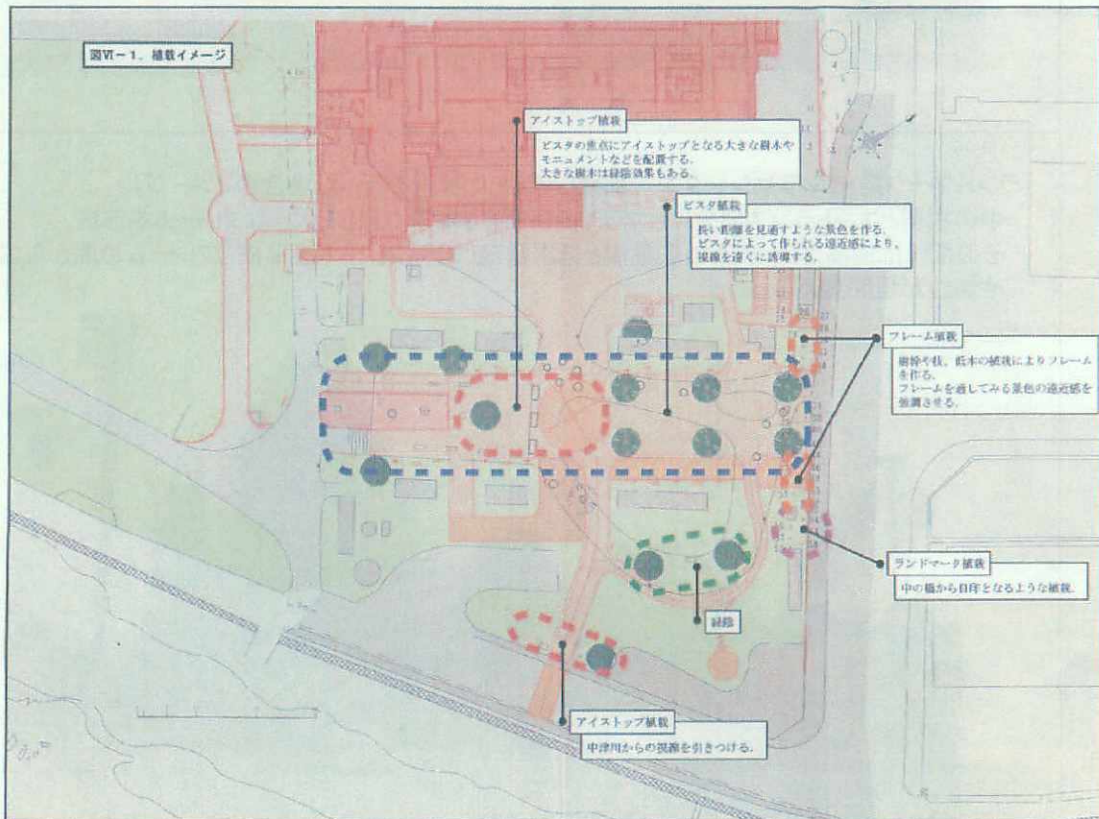


[ランドマーク案:ヒマラヤシーダを一部残し、新たに植栽を行った場合のイメージ]
中の橋側とエントランス部分にヒマラヤシーダを3本ずつ残し、大きなフレームを形成。
その間には樹高 20m 未満の広葉樹と低木植栽によりフレームを形成。フレームの間から広場
や施設が垣間見える。



期待される機能への植栽手法

- ① 公園・歴史文化施設のメインエントランス機能
 - ・ランドマーク植栽：公園の目印となるような植栽
 - ・フレーム植栽：樹幹や枝、低木の植栽により、フレーム（額縁）をつくり、奥にある空間を強調させる。
- ② 歴史文化施設利用者にとっての集いの機能
 - ・ビスタ植栽：ビスタ（見通し）の一定方向に軸線を持たせ、視線を遠く（ここでは広場中心部）に誘導する。
 - ・アイストップ植栽：ビスタの焦点にアイストップとなる樹木等を配置する。
- ③ 中心市街地（官庁街）にある緑のオアシスとしての機能
 - ・緑陰効果：夏緑広葉樹により、夏は木陰、冬は陽だまりを演出する。
- ④ 歴史文化施設活動と中津川との連携機能
 - ・アイストップ植栽：中津川からの視線をひきつける。



導入樹種の検討

導入樹種候補選定は以下の手順で行います。

植物が健やかに生育するためには気象条件、土壌条件、管理条件など様々な条件が必要となります。又それぞれの条件が複層的に関係しあって生育条件が作られています。

そこで、候補樹を気象条件で絞り込み、盛岡の公共空間等での生育実績、そして植栽目的との対応で選定することとします。

◇ 生育環境に合致した主な樹種

：イロハモミジ(ヤマモミジ)ー夏緑広葉樹(自生、植栽例多い)

新芽の赤、新緑の萌黄色、緑の小花、教材になる実、緑陰をつくる緑の量、紅葉繊細な枝条(霧水、着雪時の風情など評価は高い)、枝下高くできる。高木にならない。剪定に強い。

：シデ類(アカ、イヌ、クマ)ー夏緑広葉樹(自生、植栽例少)、薄手の葉は明るい緑陰をつくる。

秋には黄葉。細かな枝条は冬木立の風情がよい。枝下高くできる。生長遅い、剪定に強い。カナダビクトリア市にもある。

：マルバアオダモー夏緑広葉樹(自生、植栽例少)、樹姿良く、春咲く白い花は、雲や煙のようと称される。秋の紅葉は紫色を帯び変っている。大木にならない。

伐採木の活用

やむなく伐採した木は、有効的な活用を心がけ、新たな場面での利用を図って行きます。

◇ 活用例

- ・ 公園の四阿(あずまや)
- ・ ウッドチップ舗装
- ・ 教育現場における教材
- ・ 市民による木材の活用
- ・ 歴史文化施設での活用

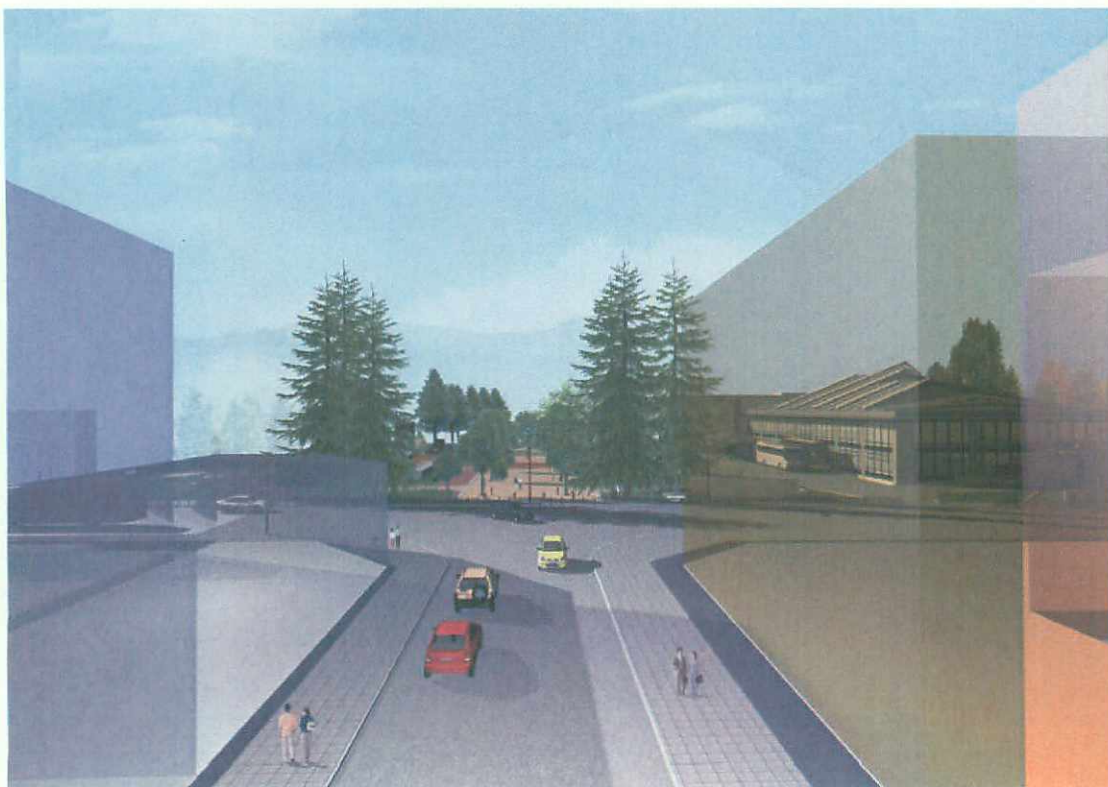
一3 整備計画(案)

【主な整備内容】

- ◇ エントランス機能による「にぎわい」の創出
 - ・ 幹線動線として園路幅員 14m(国道 106 号幅員)に拡幅
 - ・ 南斜面を活かした花壇整備(みどり花壇の確保)
- ◇ バリアフリーに配慮した園路
 - ・ ユニバーサルデザインに配慮したハード整備(段差解消, スロープ整備等)
- ◇ 和風空間の演出
 - ・ 「臥龍の松」の現状保存
 - ・ 和空間のために修景緑化(お弁当広場)
- ◇ ヒマラヤシーダの択伐によるランドマーク効果と開放感の創出
 - ・ 植栽の見直しにより市街地から歴史文化施設、公園の視認性の向上
- ◇ 中津川へのアクセス向上
 - ・ 歴史文化施設～広場～中津川へとつなぐ園路の整備(盛岡地区かわまちづくり計画と連携)



歴史文化施設前庭整備計画 (ランドマーク案)



市役所側からのイメージ (ランドマーク案)



中の橋側からのイメージ (ランドマーク案)